

# 日本占領下ビルマ「孔雀加刷と正刷」



独立ビルマの国家紋章  
(1943年)

第2次世界大戦中のアジアにおいて、1942年3月、日本軍はイギリスの植民地ビルマへ進攻し、首都ラングーンを占領した。以後、イギリスが再び支配を取り戻すまでの3年余りの間、ビルマは日本の支配下にあった。この間に、日本はビルマの独立を認めたが、実態は日本の傀儡であった。

日本軍は1942年6月から郵便業務を開始し、日本の昭和切手を利用するとともに新たに日本語表示の「正刷切手」を発行した。

また、日本軍の郵便業務開始直前、南部のイラワジ川デルタ地帯において、一部の日本軍に支援されたビルマ独立義勇軍が郵便業務を行い、植民地時代のイギリス国王ジョージ5世及びジョージ6世の肖像をビルマの国鳥である「孔雀」図案の加刷で抹消した切手を発行していた。



イギリス植民地時代

本作品は、このような日本占領下にのみ現れたビルマ独立義勇軍切手及び正刷切手に着目し、本格収集への入門的試みとして、そのアウトラインをワンフレームに展開した小さなコレクションである。

以下では、未使用、使用済、カバーを用いて発行順に構成してみた。

# ビルマ独立義勇軍 1942.5

ミョーンミャ局加刷 I 型





ミヨーンミヤ局加刷Ⅱ型



ミヨーンミヤ局加刷Ⅲ型



ミヨーンミヤ局加刷Ⅳ型



↑  
足幅 5 ミリ

↑  
足幅 8 ミリ

ミヨンミャ局加刷Ⅱ型

1 アンナ 1 枚貼普通便



Kyonpyaw (差立→到着)

消印中央のビルマ文字「၉. ၃. ၀၄.」は、「9. 3. 04」と読める。

西欧流に「日/月/年」を表示したとするなら、これは西暦638年に始まるビルマ暦1304年の3番目に来る月の9日目を表すと考えられる。

また、ビルマ暦では満月を基準に日付が決まることから、これらを踏まえて西暦に換算すると、1942年の5月22日(満月前)又は6月6日(満月後)に当たる。





ヘンザダ局加刷V型



Kyonpyaw 1942.6

ヘンザダ局加刷V型

6パイ 2枚貼普通便

※通貨換算：12パイ (pies) = 1アンナ (anna)



Henzada → Maubin

1942.7.24



ヘンザダ局加刷Ⅵ型



ヘンザダ局加刷Ⅶ型



ピヤポン局加刷Ⅷ型



# 矢野切手 1942. 6. 1

日本軍が発行した最初の正刷切手。

ビルマ郵政再建委員長・矢野静雄の認印を押捺。

額面表示はないが、1アンナ切手として通用。



## 初日カバー



Rangoon G. P. O. Sorting



農耕アンナ額面 1942. 6. 15



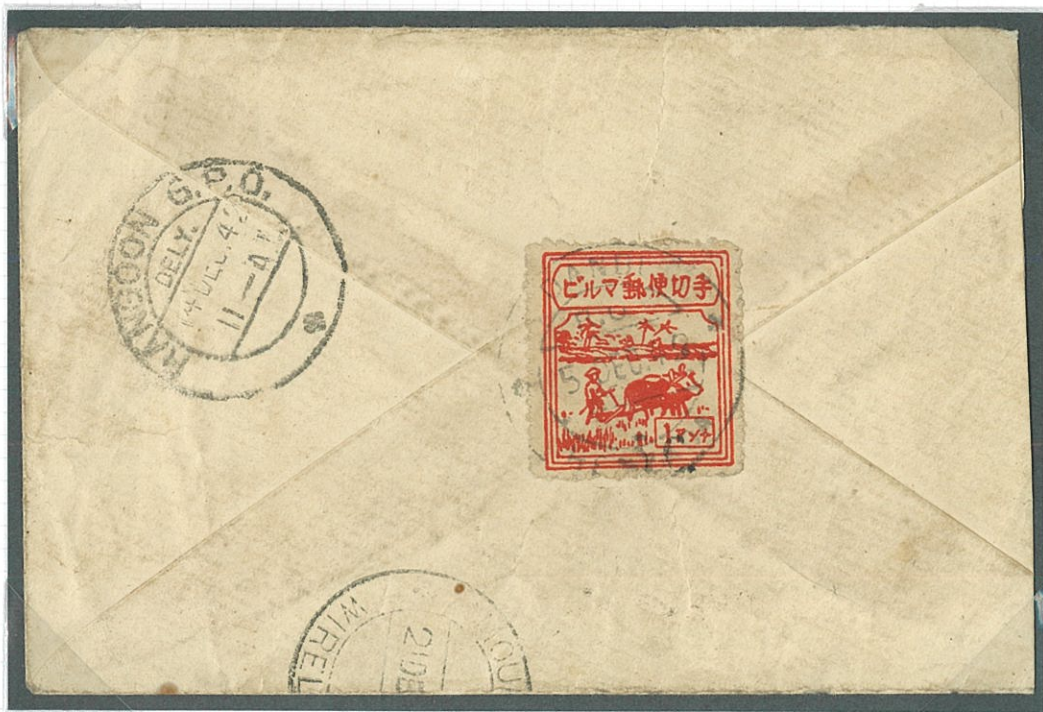
初日印

1942年10月15日のセント貨幣法改正 (1アンナ → 5セント) による額面加刷



加刷位置バラエティ

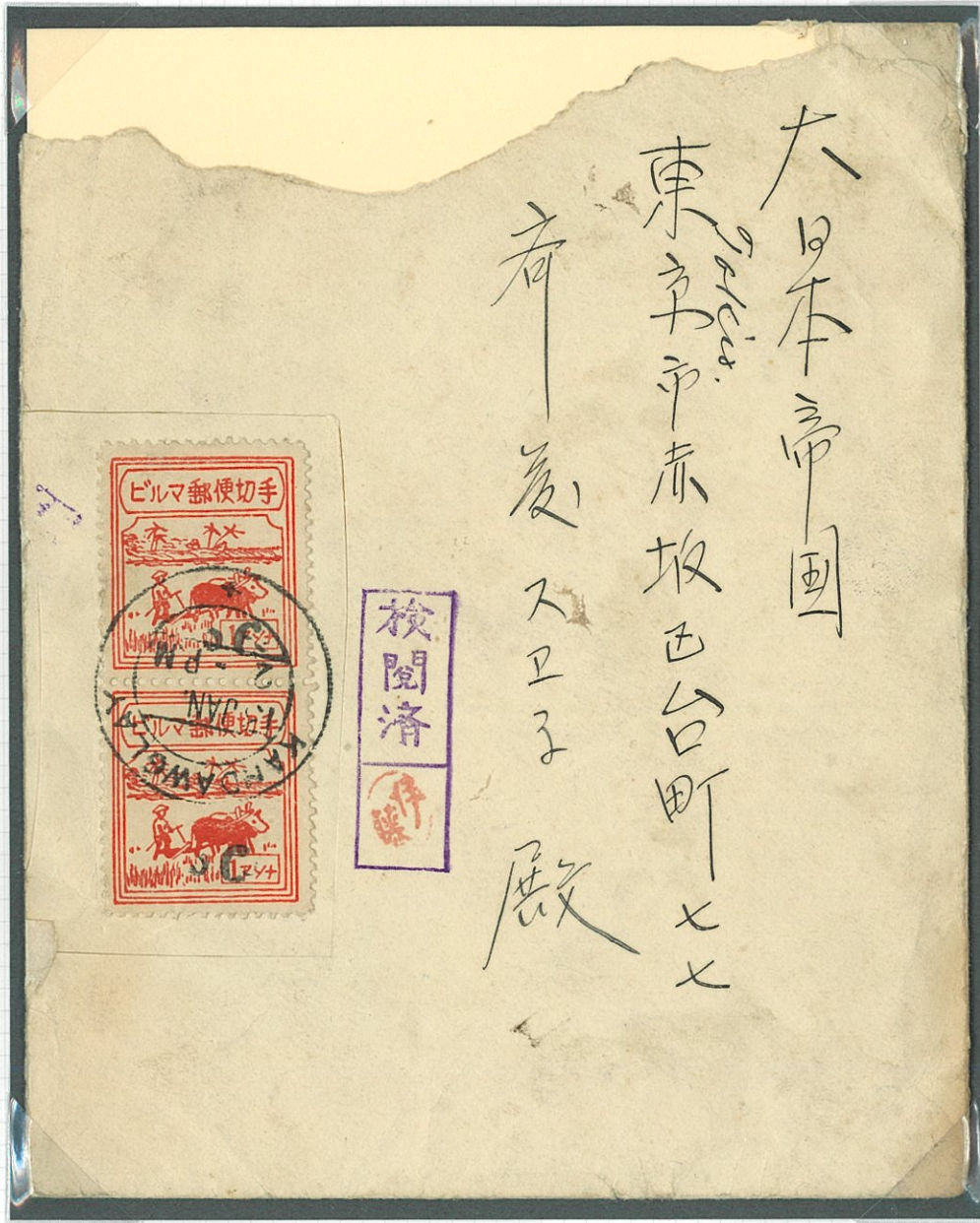
1アンナ 1枚貼普通便 Danbi-Henzada → Moulmein 1942. 12. 5





農耕

5セント加刷 2枚貼普通重量便



Kandawglay-Rangoon → 東京

1943. 1. 13

ビルマから日本宛の郵便料金は、1942年10月15日以降、ビルマ国内宛と同一になった。

VOSTOK ALBUM LEAF No. 1111 (Printed in Japan) 1212